

高校生の地元への回帰意向に影響を与える
起業体験プログラムの開発
—長崎県壱岐市における地域と高校の協働事例から—

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

修士2年 森下 祐樹

目次

1. 背景と目的
2. 先行研究レビュー
3. 研究の全体像
4. 予備調査の概要と結果
5. プログラム概要
6. プログラム実施前後の変化
7. 考察
8. 結論

本研究の目的は、生まれ育った地元を一時的に離れざるを得ない環境にある高校生が、将来的に地元に戻って仕事をする新たな選択肢を見つける可能性を検討することである。

そのために、高校在学中に高校の外（地域）に出て実践的な活動をすることで、地元に対する意識にどのような変容が見られるか、また将来的に地元に戻って仕事をする選択肢をどのように捉え直すか、それにより将来的な地元回帰志向にどのような変化が見られるかを分析する。

1. 背景と目的

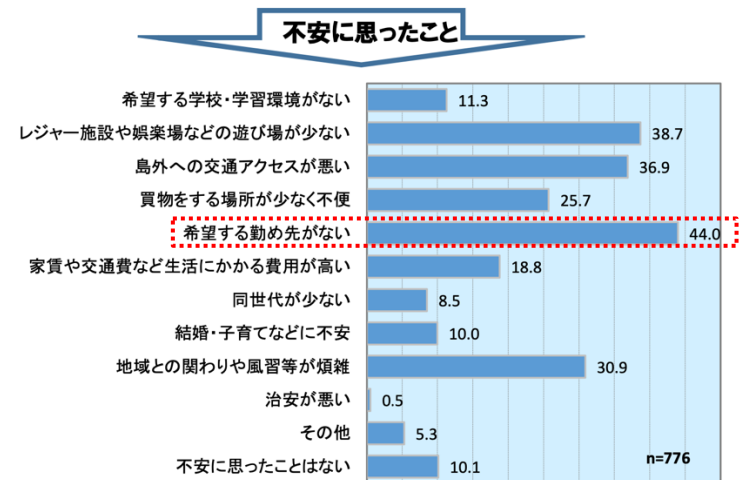
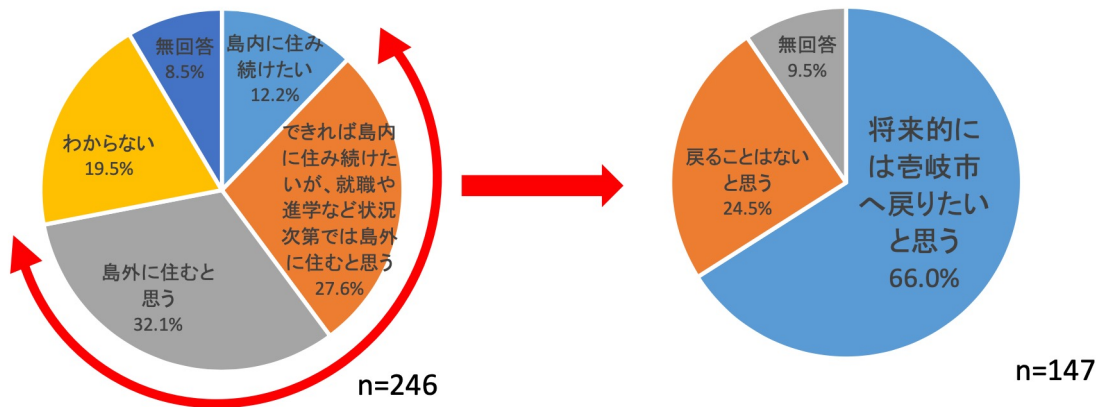
- 高校卒業後は9割以上は島外へ転出する（図表1参照）
- 一方、7割近い高校生は、将来的に地元に戻りたいと考えている（図表2参照）

図表1：学校別進路選択状況（各高校の公表情報より筆者作成）

高校名	2021年3月卒業生数	島内残留人数（割合）
壱岐高校	154	2（1%）
壱岐商業高校	64	10（16%）

図表2：将来的な地元居住意向と不安に感じていること

4)卒業後の壱岐市居住 5)将来の壱岐市居住意向



出典：「壱岐市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（2015年10月）

2. 先行研究レビュー

- (1) 学力と地域志向度の関係分析
- (2) 親が子に与える影響の分析

1. 進学校間を比較すると、A校において、「戻りたい希望が少しある、あまり戻りたいとは思わない」生徒が有意に多い。B校においては、「戻りたい希望が強くある」生徒が有意に多くなっている。このことから進学校では、Uターンを含めた地域志向度と学力に負の相関がありそうである。(北山, 2021)

表4 学力と地域志向度のクロス集計表

(単位:人)		地域志向度				
		地域に残りたい	戻りたい希望が強くある	戻りたい希望が少しある	あまり戻りたいとは思わない	戻りたいとは思わない
学 力	A校	**▽ 9	17	**▲ 93	**▲ 102	32
	B校	**▽ 11	**▲ 18	47	43	25
	C校	**▲ 56	7	*▽ 30	**▽ 22	22
	D校	**▲ 61	**▽ 2	+▽ 33	**▽ 24	18

(*p<0.10、*p<0.05、**p<0.01、▲有意に多い、▽有意に少ない)、サンプル数N=672、有効回答率:92.2%

出典:北山 大地, 地方都市における高校生の地域への愛着・Uターン意識・学力の3関係
--X地域の地方創生戦略における高校生の意識調査-- (2021)

2. 例えば、庄内以外での居住経験がある母親や、学歴の高い母親は、子どもへの残留希望割合が低い。そうした母親にとって、子どもの将来の活躍の場として庄内地域は積極的に期待を抱けない何らかの理由があると考えられる。(山口, 2017)

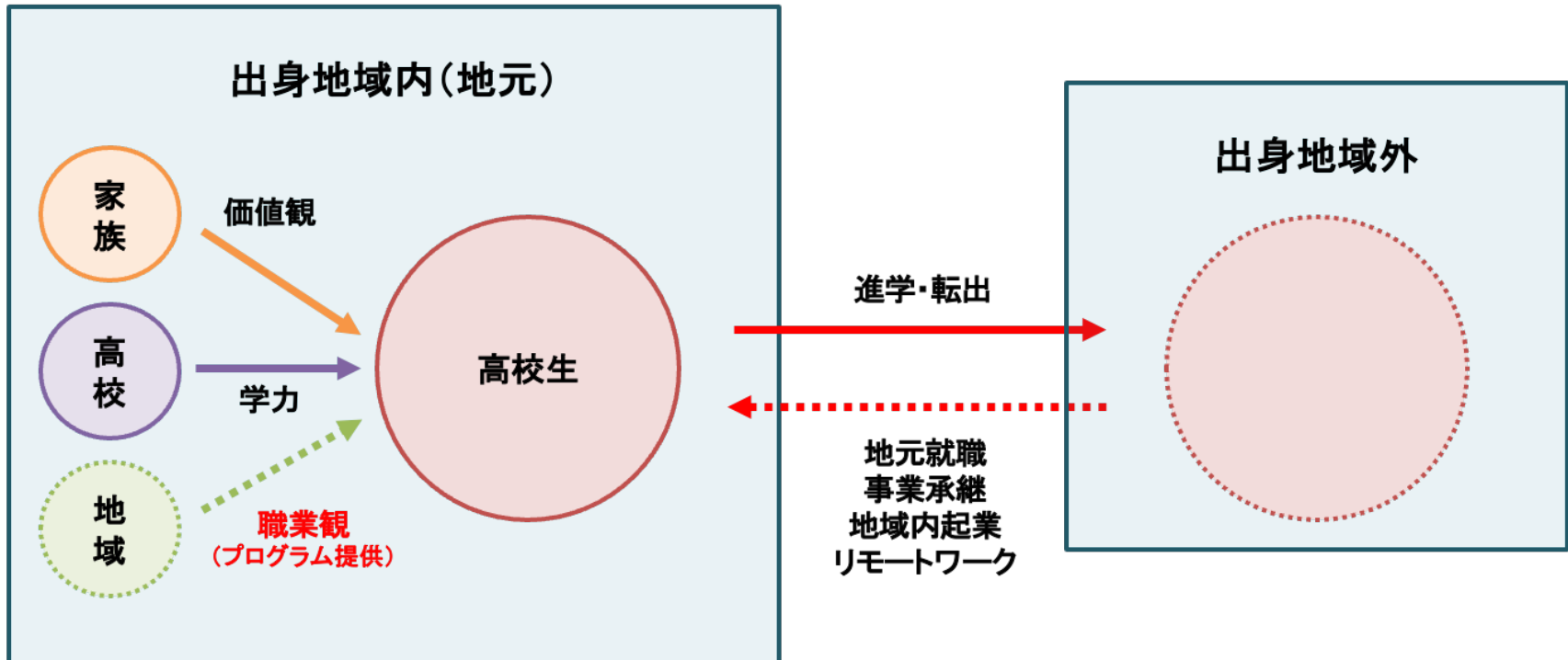
「学校 (学力)」や「親」と地元回帰意向には負の関係が見られ、異なる切り口が求められる

3. 研究の全体像

- ・ 第三の存在として「地域」が高校生の地元への回帰志向に与える影響を分析する
- ・ 筆者自身がプログラム開発に関わり、仮説検証を行う

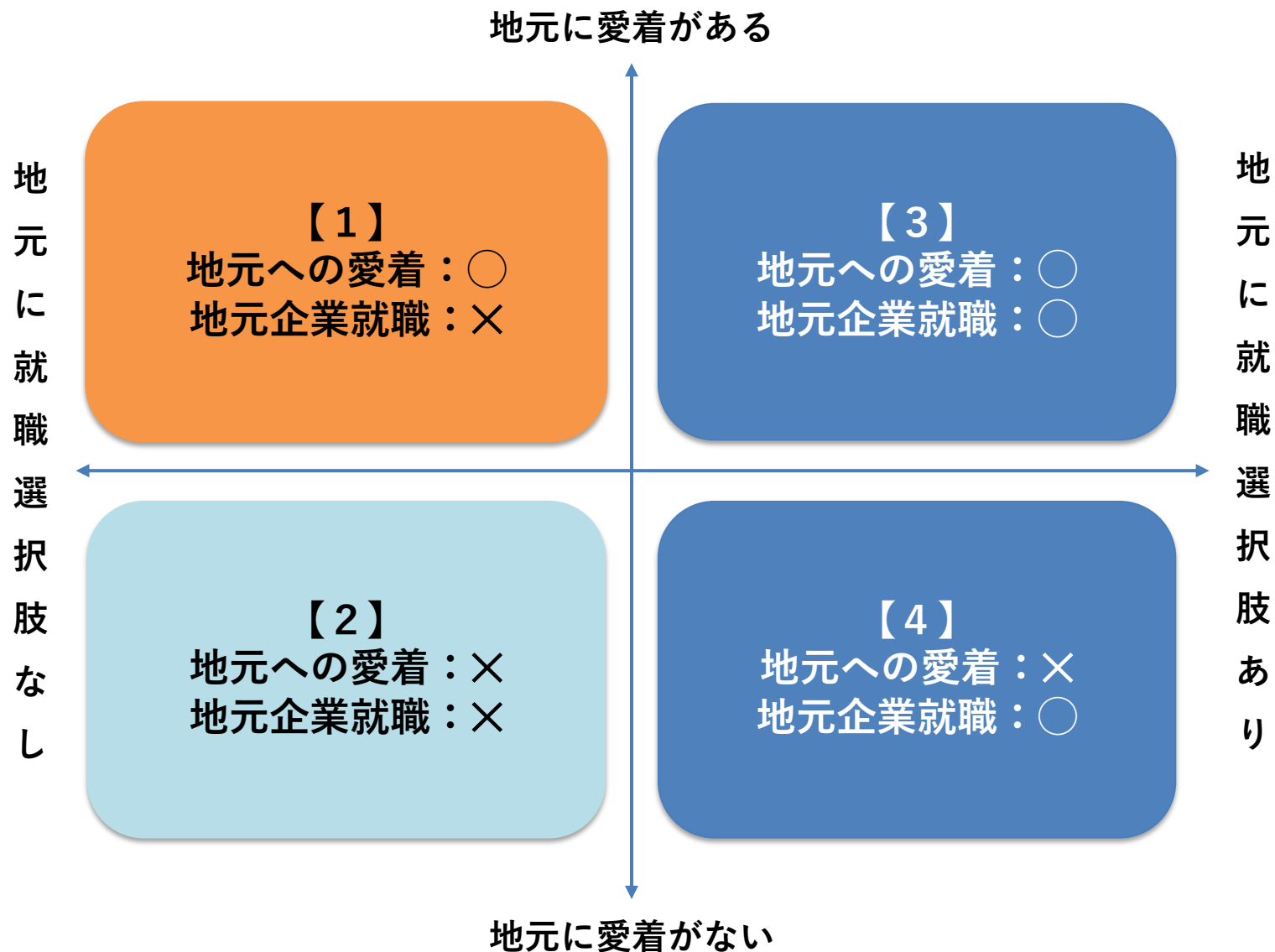
< 研究の全体像 >

- ・ 商業高校3年生10名を対象とした起業体験プログラムを開発
- ・ 地域が高校生に対してプログラム提供することが与える影響



3. 研究の全体像（研究対象の設定）

- 主な対象は、【1】の地元への愛着はあるが地元企業への就職イメージがない層



4. 予備調査の概要と結果

- ・ 状況分析のために、研究対象の壱岐商業高校3年生向けにアンケート調査を実施

図表3：予備調査アンケート概要

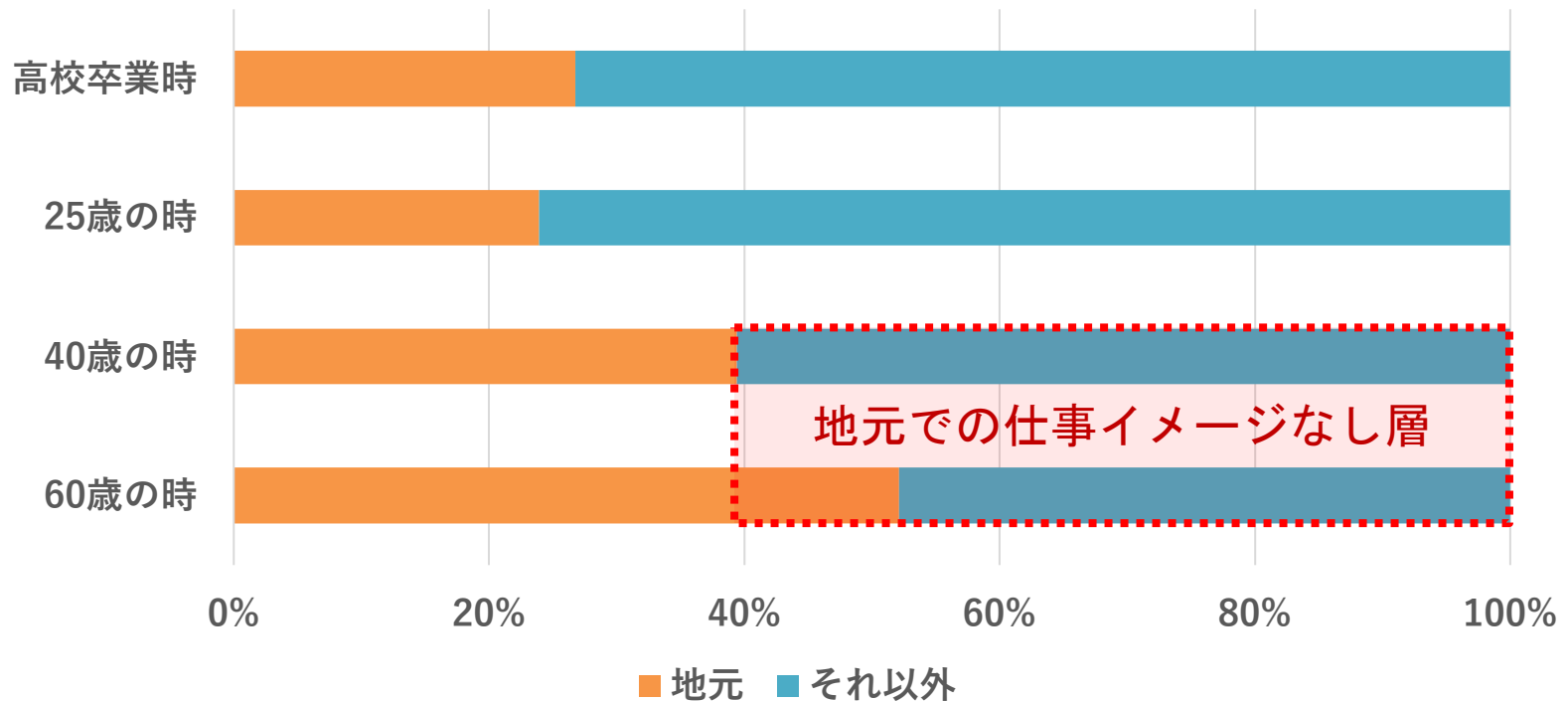
アンケート対象者	長崎県立壱岐商業高校 2022年3月卒業生
アンケート実施時期・方法	2022年2月に学校内で教員により紙で配布し回収
アンケート回答者	71名（全78名中）
主な質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ①現在住んでいる町名、住んでいる期間 ②家族の職業 ③地元に対する愛着 ④高校卒業後の進路予定 ⑤将来の就職先希望 ⑥将来の居住予定地 ⑦仕事や仕事をする大人のイメージ ⑧自身の将来の見通し ⑨希望する将来の職業

4. 予備調査の概要と結果

- 結果1 「将来地元に住みたいという意向はあるが、地元で仕事をするイメージが持てていない」

図表4：予備調査アンケート結果（将来の地元居住予定割合の年齢ごとの推移）

Q. 将来はどこで暮らしたいですか？



4. 予備調査の概要と結果

- 結果2 「大学進学予定者においては、島外へ進学後、将来的な地元回帰意向がない」

Q9. 将来はどこで暮らしたいですか？（現在の希望をご回答ください）

	※①～④につき、それぞれ1つ選択してください		
①高校卒業後	<input type="checkbox"/> 吉崎市内 <input type="checkbox"/> その他日本国内	<input type="checkbox"/> 長崎県内（吉崎市を除く） <input type="checkbox"/> 海外	<input type="checkbox"/> 福岡県内 <input type="checkbox"/> わからない
②25歳の時	<input type="checkbox"/> 吉崎市内 <input type="checkbox"/> その他日本国内	<input type="checkbox"/> 長崎県内（吉崎市を除く） <input type="checkbox"/> 海外	<input type="checkbox"/> 福岡県内 <input type="checkbox"/> わからない
③40歳の時	<input type="checkbox"/> 吉崎市内 <input type="checkbox"/> その他日本国内	<input type="checkbox"/> 長崎県内（吉崎市を除く） <input type="checkbox"/> 海外	<input type="checkbox"/> 福岡県内 <input type="checkbox"/> わからない
④60歳の時 （老後）	<input type="checkbox"/> 吉崎市内 <input type="checkbox"/> その他日本国内	<input type="checkbox"/> 長崎県内（吉崎市を除く） <input type="checkbox"/> 海外	<input type="checkbox"/> 福岡県内 <input type="checkbox"/> わからない

図表5：予備調査アンケート結果（【高校卒業後の進路別】将来的な地元居住希望）

	人数	高校卒業時	25歳の時	40歳の時	60歳の時
4年制大学	2	0	0	0	0
短期大学	6	0	0	0	0
専門学校等	26	1	2	10	13
就職	36	18	15	17	23

4. 予備調査の概要と結果

- 2つの結果から考えられるプログラムの方向性

結果1

「将来地元に住みたいという意向はあるが、地元で仕事をするイメージが持てていない」



『地元で仕事をする自身の姿』がイメージできるようなプログラムを開発できないだろうか？

結果2

「大学進学予定者は、島外へ進学後、将来的な地元回帰意向がない」



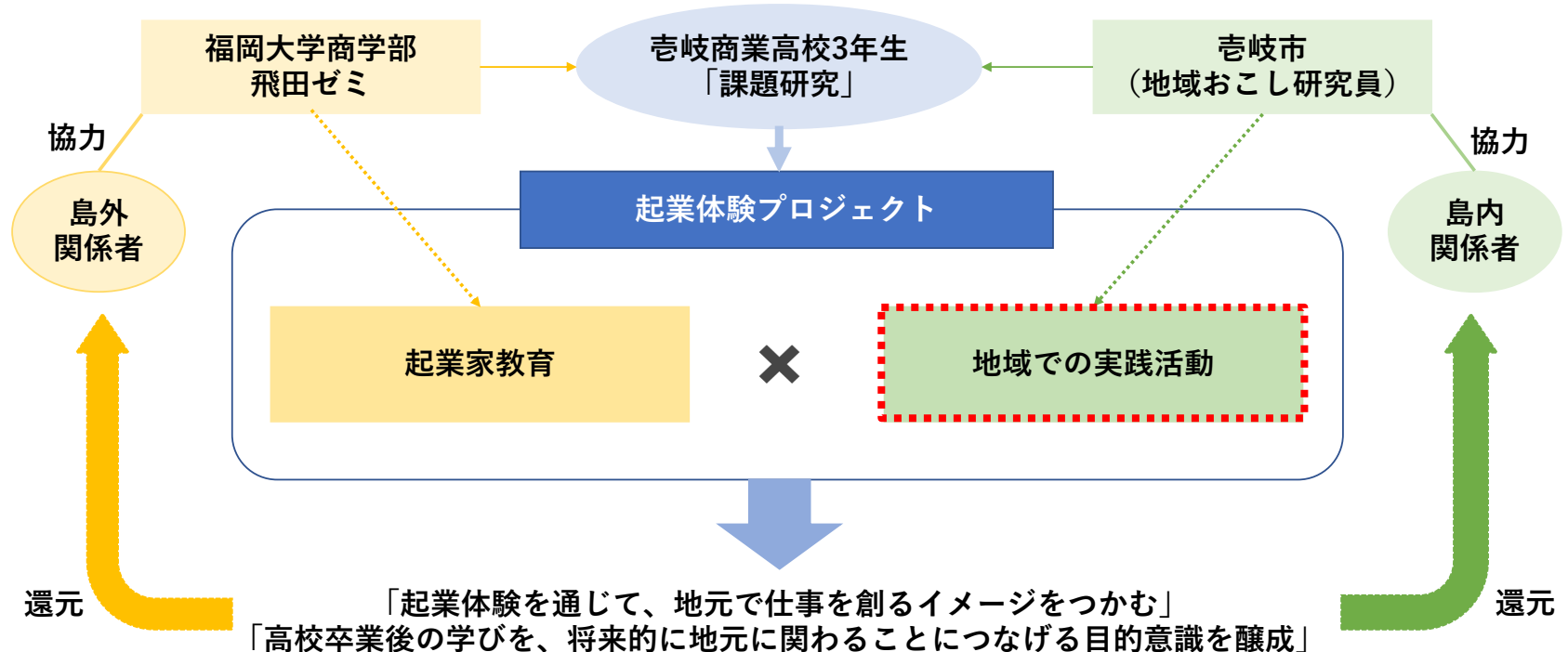
大学進学者が島外で学んだことを、地元で活かせるような仕事の捉え方はできないだろうか？

5. プログラム概要

- ・ 壱岐商業高校3年生10名に対して、通年プログラムを実施
- ・ プログラム参加者の地元への回帰志向の変化を調査

調査対象者	壱岐商業高校 2023年3月卒業の高校3年生10名
プログラム実施期間	2022年4月～2022年12月
プログラム実施回数	72コマ（協力大学担当：50コマ／壱岐市担当：22コマ）

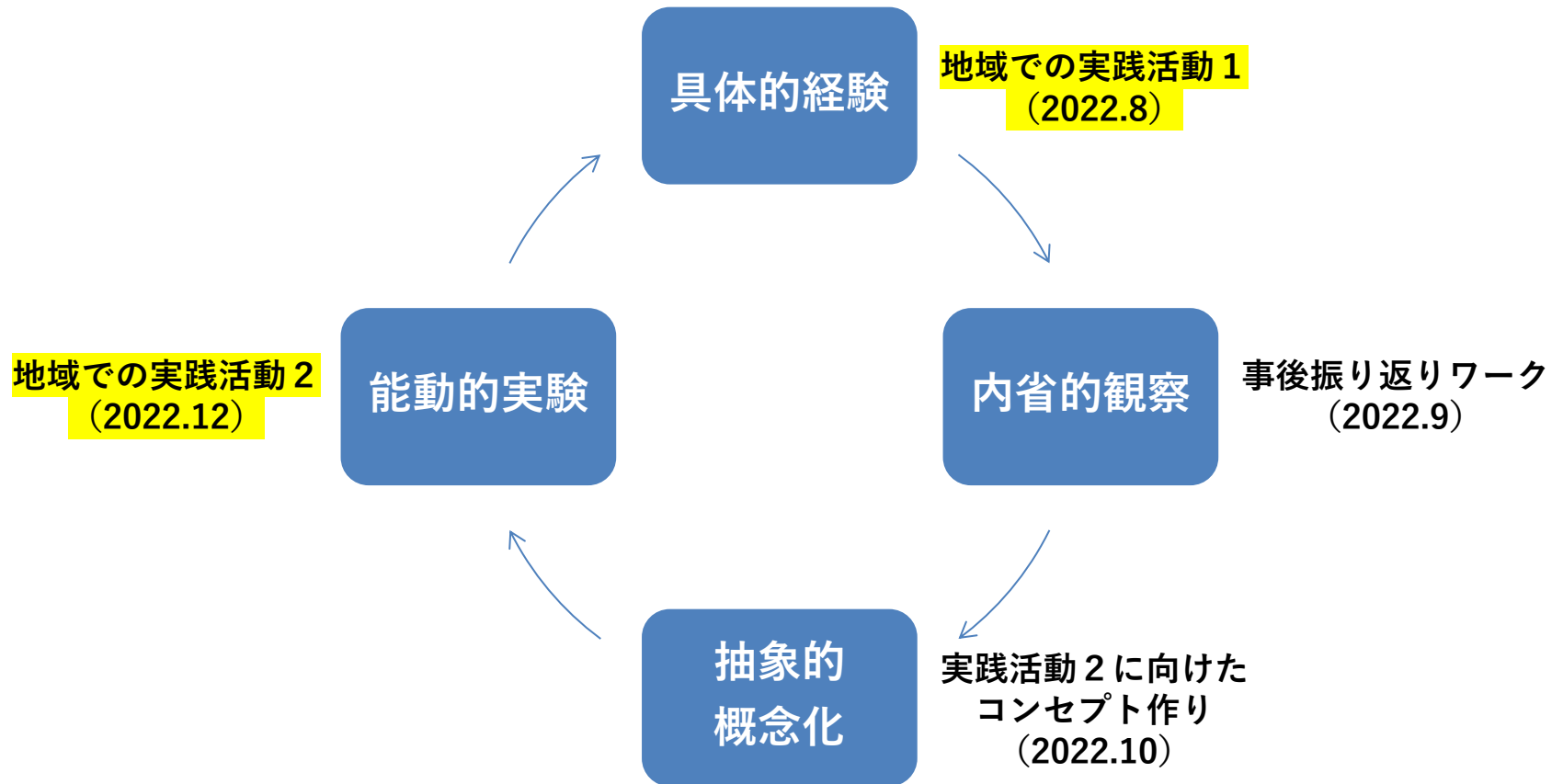
図表6：プログラム実施体制



5. プログラム概要

- 「経験（実践）から学ぶこと」を重視したプログラムを開発

図表7：経験学習モデルと開発プログラムの対応



出典：Kolb(1984)による経験学習モデルを元に筆者作成

5. プログラム概要（実践活動1）

- 8月27日, 28日に空き店舗を利用した週末限定カフェ、洋服店をオープン
- 2日間で380名が来場。「仕入れ」「販売」を高校生が担当。



Iki Été Marche
吉岐エテマルシェ

営業日 8月27日(土)・28日(日)
時間 11:00 - 16:00
場所 吉岐市勝本町勝本浦207
(勝本入口バス停前)

企画：吉岐商業高校 / 福岡大学飛田ゼミ 協力：SPINNS / パンプラス / イチ / 珈琲焙煎所
サポーター：勝本浦まちづくり協議会 / 一般社団法人吉岐みらい創りサイト



5. プログラム概要（実践活動2）

- ・ 12月11日に出張文化祭というコンセプトでマルシェを開催
- ・ 「イベント全体企画」「当日運営」を高校生が担当。



2022.12.11 (日)
11:00~16:00
勝本浦商店街周辺

岐 イヴェールマルシェ

— 岐商出張文化祭 in 勝本 —

夏休みに開催したエテマルシェが
クリスマス仕様になってパワーアップ!!
小さいお子様から大人の方まで楽しめるイベントになりました

みるもの

- ・ 岐商商業高校の
吉州荒海太鼓部と
吹奏楽部による演奏
■ 太鼓部の演奏 11 時～
■ 吹奏楽部の演奏 14 時～
(場所 黒瀬駐車場)
※ 雨天時は演奏中止
- ・ 商高生による写真展
(supported by 島の写真展)
- ・ 岐にまつわる
「まんが日本昔話」上映
13 時～ / 15 時～
(場所 勝本地区公民館)

かいもの

- ・ 商高コラボパンなどパン各種
(パンバス)
- ・ 商高コラボスープ
(CAFÉ DE LUDDY)
- ・ ドーナツ&ドリンク
(SHIMA CAFÉ by 商高情報メディア部)
- ・ 勝本海鮮焼きそば
(岐の丸 by 福岡大学商学部飛田ゼミ)
- ・ スパイスカレー
(チトリ自由食堂)
- ・ 商高生による一日限定洋服店
(supported by SPINNS)

やってみよう!!

- ・ 勝本浦周遊スタンプラリー
(午前の部 10:30 受付開始)
(午後の部 13:30 受付開始)
※ 各定員 40 名まで
- ・ 勝本浦ガイドによる
まち歩きツアー
13 時～ / 15 時～ ※ 各定員 20 名まで
- ・ サウナ体験 (LAMP 岐)
- ※ 水着持参、有料

スタンプラリー達成者には
勝本浦の特典商品を
プレゼント!



【お問い合わせ】
(一社) 岐みらい創りサイト
TEL 0920-40-0231

主催 岐商商業高校 課題研究 起業体験プロジェクト 福岡大学商学部飛田ゼミ
共催 (一社) 岐みらい創りサイト 勝本浦まちづくり協議会




5. プログラム概要（調査方法）

- ・ 高校3年生に対して、年間を通してプログラムを実施
- ・ プログラム参加者の地元回帰志向の変化を調査

リサーチクエスチョン：

地域での実践活動を通じて、高校生の地元での仕事に対する意識、
将来的な地元回帰志向は、どのような変化が見られるのか

図表8：リサーチデザイン



*クレスウェルがMMRデザインで分類する収斂的デザイン(convergent design)を採用する

6. プログラム実施前後の変化

・ 調査対象者プロフィール

図表9：調査対象者10名のプロフィール

	性別	居住地	壱岐市在住期間	親の職業
A	女性	A町	1. 生まれてからずっと	2. 会社・商店の従業員
B	男性	A町	1. 生まれてからずっと	3. 医療・介護・福祉関係（医師、看護師、介護士など）
C	女性	G町	2. 10年以上	7. 団体職員（農協・漁協など）
D	男性	G町	1. 生まれてからずっと	2. 会社・商店の従業員
E	女性	A町	2. 10年以上	3. 医療・介護・福祉関係（医師、看護師、介護士など）
F	女性	G町	1. 生まれてからずっと	2. 会社・商店の従業員
G	男性	K町	3. 4～9年間	2. 会社・商店の従業員
H	男性	I町	1. 生まれてからずっと	2. 会社・商店の従業員
I	女性	A町	1. 生まれてからずっと	3. 医療・介護・福祉関係（医師、看護師、介護士など）
J	女性	G町	1. 生まれてからずっと	2. 会社・商店の従業員

6. プログラム実施前後の変化

- ・ プログラム参加者4名が、実施前後で将来的に地元居住意向ありに変化が見られる
- ・ 将来的な起業意識は、2名が肯定的な回答に変化が見られる

図表10：プログラム実施前後での変化

	進路予定	地元への 愛着 (実施前)	地元への 愛着 (実施後)	類型* (実施前)	類型* (実施後)	Uターン 意向年齢 (実施前)	Uターン 意向年齢 (実施後)	将来的な 起業意識 (実施前)	将来的な 起業意識 (実施後)	希望職業 (実施前)	希望職業 (実施後)
A	短大	○	◎	Uターン型	県外定住型	60歳時点	×	△	×	栄養士	栄養士
B	短大	△	◎	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	◎	◎	社労士	社労士
C	専門学校	◎	◎	Uターン型	Uターン型	40歳時点	40歳時点	×	×	理学療法士	理学療法士
D	就職	△	△	県外定住型	県外定住型	×	×	△	◎	回答なし	社長
E	大学	○	○	県外定住型	県外定住型	×	×	△	△	管理栄養士	管理栄養士
F	大学	○	◎	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	◎	◎	IT系	システム エンジニア
G	大学	○	○	Uターン型	Uターン型	25歳時点	25歳時点	△	◎	教員	教員
H	大学	◎	◎	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	△	回答なし	回答なし	銀行員
I	就職	○	○	県外定住型	地元定住型	×	高卒時点	◎	◎	柔道整復師	柔道整復師
J	大学	○	◎	Uターン型	Uターン型	60歳時点	60歳時点	◎	◎	回答なし	回答なし

*類型について、吉川（2001）のローカル・トラック研究を参考に、巻岐市における地理的状況を考慮し、筆者が①地元定住型、②Uターン型、③県内定住型、④県外定住型の4類型に分類した。

6. プログラム実施前後の変化

- ・ 変化が見られた4名は、全員Uターン意向年齢は40歳以前
- ・ 全員が早期（1学期終了時点）の段階で、Uターン型への変化が見られる

図表 1 1：プログラム実施前後での変化

	進路予定	進路先 (実施前)	進路先 (実施後)	類型* (実施前)	類型* (実施後)	Uターン 意向年齢 (実施前)	Uターン 意向年齢 (実施後)	将来的な 起業意識 (実施前)	将来的な 起業意識 (実施後)	希望職業 (実施前)	希望職業 (実施後)
B	短大	福岡	福岡	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	○	◎	社労士	社労士
変化の場面	アンケート調査 2 (2022.7) の時点で「40歳時点」の回答										
F	大学	福岡	長崎	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	○	○	IT系	システム エンジニア
変化の場面	①アンケート調査 2 (2022.7) の時点で「60歳時点」の回答 ②アンケート調査 4 (2022.12) の時点で「40歳時点」の回答										
H	大学	その他	大分	県外定住型	Uターン型	×	40歳時点	△	回答なし	回答なし	銀行員
変化の場面	アンケート調査 2 (2022.7) の時点で「40歳時点」の回答										
I	就職	福岡	壱岐	県外定住型	地元定住型	×	高卒時点	◎	○	柔道整復師	柔道整復師
変化の場面	アンケート調査 2 (2022.7) の時点で「高卒時点」の回答										

変化が見られた4名全員が「40歳時点」よりも前の時期を選択しており、これは「地元で仕事をする自身の姿」をイメージしたことを意味すると考えられる

6. プログラム実施前後の変化

- 「実践1」終了後（2022年10月）に半構造化インタビューを実施

図表12：インタビュー概要

インタビュー対象者	プログラム参加者全10名
インタビュー方法	授業時間中に別教室で個別実施（1名につき15分程度）
主な質問項目	<p><参加前について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム参加のきっかけ、心境 <p><参加中について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で、一番印象に残っているシーン <p><参加前後の変化について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元（壱岐）に対する見方の変化 ・生活する場所として地元壱岐の見方 ・仕事をする場所として地元壱岐の見方 ・起業という選択肢の捉え方 ・進路・将来計画に対するプログラム参加の影響

6. プログラム実施前後の変化

- 地元回帰志向について変化が見られた4名のインタビュー結果を分析
- Bのケース（希望職種：社会保険労務士）

データ	ラベル
<p>でまあ、僕自身も自然というかそういうのは好きなんで、僕海拔が高いところ、山の中なんですけど、家の裏すぐ下に海があって、海と山がある場所なんで、結構その場所の景色とか気に入ってて、そういうところでやっぱりいいなって。</p>	<p>地元の好きなところ</p>
<p>ただ選べる仕事が少ないんじゃないかって、自分のいい仕事が見つければいいんじゃないかなと思ったりします。</p>	<p>希望する仕事を見つける困難さ</p>
<p>まだ漠然とし過ぎてるんですけど、あるのはありますね。いずれ壱岐でやりたいなというのは考えています。進学で福岡とか出て、いずれ壱岐に帰りたいという思いはありますし。</p>	<p>地元での起業への関心</p>
<p>それでいずれ簿記で培ったことを発揮できる仕事をしたいなと思っていて。いずれ壱岐で働きたいとも考えているんで。壱岐にないもので、簿記を活かせる仕事って考えて。</p>	<p>自身の強みを活かす</p>
<p>父もその福祉施設の経営っていうんですかね。それをやってて、やっぱり壱岐でやってて不便な点とか思うところあるって聞いたんですよ。日頃の家で。</p>	<p>父からの話</p>
<p>それでなれるかどうかわからないんですけど。社会保険労務士、社労士っていうのがあるらしくて。簿記とかビジネス的なことも使えると思ってて、今壱岐にいないっぽくて、事務所が僕の父も福岡とか佐賀とか社労士さん雇って、いろいろやってもらってるみたいで。</p>	<p>具体的な目標</p>

6. プログラム実施前後の変化

- 地元回帰志向について変化が見られた4名のインタビュー結果を分析
- Fのケース（希望職種：システムエンジニア）

データ	ラベル
部活の方でふるさと納税とか販売実習とかもしたりがしたんですけど、その時は商品とかも事前に用意してくれて。当日はそこに行って売り子頑張るみたいな。そういう販売という行動を体験するっていう感じだったんですけど。	地域での過去の活動
マルシェとかだったら会社の一からを体験できたっていうのが気づきですね。	過去の体験と今回のプログラムの違い
正直今後IT化が進んでいるので、その辺の不便はちょっとずつ。送料かかるはしょうがないんですけど。ちょっとずつ不便はなくなってくるんじゃないかなと思いますね。	地元に対する良くなる見通し
私はプログラマーとか、そっち系の仕事をしたいので。	希望する仕事
正直企業によっては場所をとらない形で仕事をすることもできると思うんですけど。オフィスは都会にあるけど、場所はこっちで働くとかもうできると思うんですけどでも。	地元豊岐で仕事をするイメージ
最初は一回多分就職して働くと思うんですけど。この何て言うんですかね、 このまま豊岐をみんな出て行ったら廃れていくって思うので。	このままだと悪くなる見通し
自分の故郷を守る。 豊岐を盛り上げるためにも、自分で起業して。 そういうIT化じゃないけど、自分が学んできた知識を生かして、住みやすい所にするっていうのはやってみたいと思います。	自身が地元に関与したい思い

6. プログラム実施前後の変化

- 地元回帰志向について変化が見られた4名のインタビュー結果を分析
- Hのケース（希望職種：銀行員）

データ	ラベル
そこはもうアパレルチームと空き家活用というチームでやったんですけど、Xさんの評価的には後者の方が良いって言ってくれたんで。ニーズにはあってるっていう評価してくれたんで、間違ってたんだなって言うのは思いました。	憧れの大人からアイデアを評価された経験
ちっちゃい時から、良くも悪くもアクティブって周りの人から良く言われるし、活動することが好きなんで。自分のアイデアがそんなに採用されたということはないんですけど。こうしたいっていう要望をぶつけてきたっていうことがあるんですけど、そんな感じです。	今までもアイデア出しが好きだった自分
今はもう半年もしないうちに進学して、ここを出るっていう考えると、もう少し壱岐にいたいなあっていう気持ちは前より思うようになって。この前の対話会とか、今までと若干違うみたいなのをいいなあという思いがあったり。都会で暮らすより、ここがいいなあっていうのは漠然とですけど思うようにはなったりしました。	地元を離れる寂しさ
経済とか経営にも興味を持ったし、進路的には起業家になるってことじゃないんですけど。僕は銀行員になりたくて、経理とかに携わりたいなって。	興味関心と仕事のイメージ
そう考えると壱岐で働くっていう考えると、自分がやりたいことができる環境ではないとは思ってて。でも福岡とかがあるんで、まず福岡で働いてみて、帰って来なければいつでも帰ってこれる場所に壱岐があるんで。	希望する仕事がある福岡と壱岐の近さ
なんか市民ランナーの人で銀行員してる人って結構多かったです。働きながら走ったりしている人とかっていうのも結構いたりして。両立しやすそうだなあっていうの、働いてないからわからないんですけど。そういうイメージあっていいかなと思って。	目指したい仕事をする姿

6. プログラム実施前後の変化

- 地元回帰志向について変化が見られた4名のインタビュー結果を分析
- Iのケース（希望職種：柔道整復師）

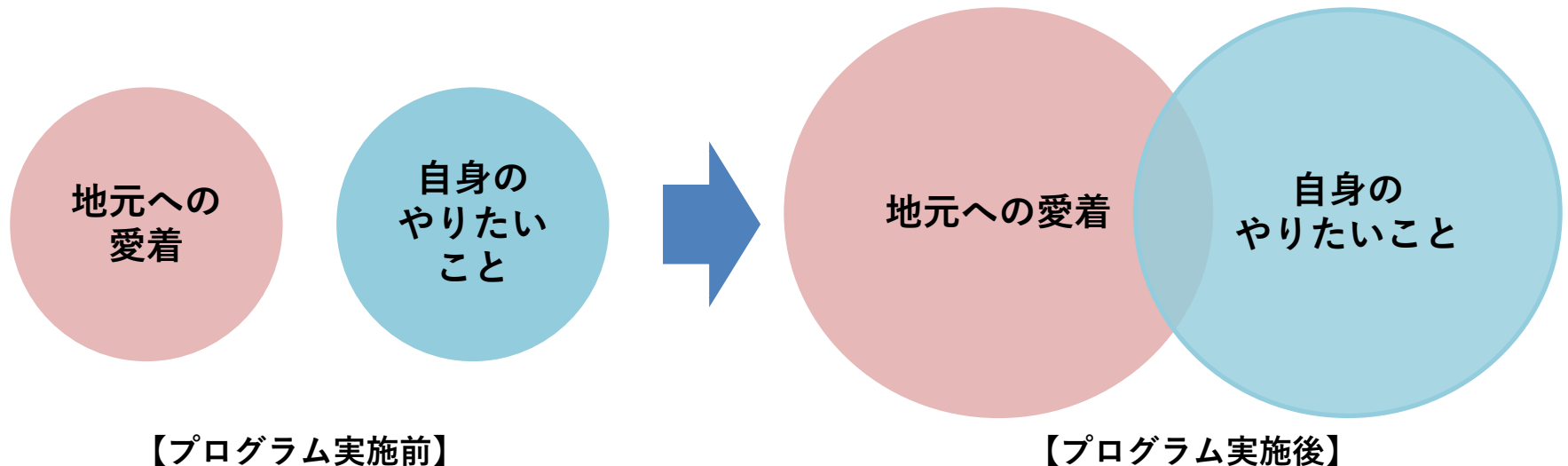
データ	ラベル
<p>もともと柔道整復師になりたいと思っていて、後々に自分で経営したいなと思って、その時のために起業について学びたいなと思って、自分から参加しました。</p>	元々の起業への関心
<p>私が人見知りなんで、地域の人と会った時とかに挨拶するぐらいしかないけど、地域の人と関わったら吉崎の人っていい人が多いなってわかって楽しかったし。もうちょっと色々な人と地域の人と関わって、吉崎もちょっとは変わったりとか、いい島になっているかなって感じがしました。</p>	地元吉崎へのポジティブな印象
<p>自然とかも良いし、食べ物も美味しかったりと、雰囲気もとても良くて。いい人多いしいいかなと思うんですけど。交通とか不便があったり、昔からどこかに行きたい時に親に頼るしかなくて。もうちょっと動きやすいようになれば吉崎自体も活性化していくのかなって思ってます。</p>	地元吉崎の良い面と変化への期待
<p>吉崎自体があまり人も多くないので、お客さんが集まるのかっていうのは、ほかのところに比べたらそこまでじゃないと思うんですけど。自分がする立場だったら、地域の人々との関わりを持ってたりとか結構いいかなって思うんですけど。経営面で考えると利益とか上がるのかなっていうふうに思ったりします。</p>	自身が経営する場合の不安
<p>柔道整復師になること自体はいいかなって思っているんですけど、就職で一度お金貯めて学んで、そこから柔道整復師目指すっていうのもいいかなと思ってます。就職も柔道整復師に近い感じで、マッサージとかその辺のところに就職して、知識を身につけたいなと思って探しています。</p>	具体的な将来計画
<p>授業を通していろんな人と話せるようになったっていうことは、将来仕事をするときにも喋れるようになると思うし。この授業に参加して身に付くようになったっていうのは、参加してよかったなという風に思います。</p>	授業を通じた自身の変化

7. 考察

- ・ 変化が見られた4名のインタビュー結果から見えたこと

- ① 地元に対する肯定的な見方
- ② 自身の仕事をする姿の明確化
- ③ ①と②が重なる具体的なイメージの模索

図表13：プログラム実施前後での変化イメージ（筆者作成）



8. 結論

- ・ 限界と得られた知見

【限界】

- ①調査対象者の量的妥当性
- ②現在の意識と将来的な行動の乖離可能性

【得られた知見】

- ①高校在学中に、高校の外（地域）で行う実践的な活動により、地域の魅力の再発見につながる
- ②仕事をしている大人との関わり・評価により、自身の強みを活かせる自信につながる
- ③具体的に自身に関わるイメージ・期待を地元に対して持てることが、地元への回帰志向の変化につながる

①地域に今あるリソース②自身の強み（リソース）③具体的な関与場面の設定
＝「イントラプレナーシップ」が、地元回帰に必要な資質になるのでは